

演題番号：

演題名：牛白血病の3症例

発表者氏名：金谷安利¹⁾ 中山智之¹⁾ 長谷川嘉子¹⁾ 浅井素子²⁾

発表者所属：1)滋賀県食肉衛生検査所 2)滋賀県家畜保健衛生所

1. はじめに：牛白血病は、平成10年に届出伝染病に指定されたが、その発生頭数は年々増加傾向にあり、牛の監視伝染病の中で最も発生数の多い疾患である。平成25年4月から12月現在で、滋賀食肉センターに搬入され、牛白血病と診断された牛は、3頭であった。今回その3頭の症例について報告する。

2. 材料：(症例1) 黒毛和種、去勢、25か月齢、出生：長崎県、飼育：東近江市。一般畜として搬入された。

(症例2) 黒毛和種、牝、25か月齢、出生：熊本県、飼育：東近江市。診断名腎炎で病畜として搬入された。

(症例3) 交雑種、去勢、25か月齢、出生：埼玉県、飼育：北海道、東近江市。診断名腰椎挫傷で病畜として搬入された。

3. 剖検所見(症例1) 心耳の白色結節、肝臓の腫大、脾臓の赤色結節、リンパ節(体表、内腸骨、腸間膜、肺縦隔、腎臓リンパ節)の腫大を認めた。

(症例2) 肝臓、脾臓、子宮の腫大、腎臓の腫大および結節の形成、リンパ節(下顎、腸間膜、腎臓、肺リンパ節)の腫大、胸膜炎を認めた。

(症例3) 右心室、第四胃粘膜面の結節、リンパ節(体表、腸間膜、肝臓、肺縦隔、内腸骨、内側咽喉頭、外側咽喉頭リンパ節)の腫大を認めた。

4. 組織所見(症例1) HE染色 心臓の心筋間に軽度に腫瘍細胞の浸潤、腎臓の尿細管間質に腫瘍細胞の浸潤、脾臓の赤脾髄に腫瘍細胞の浸潤を認めた。

ディフクイック染色 リンパ節(浅頸、腸管膜、内腸骨、肺、耳下腺リンパ節)に大小不同の異型リンパ球像と核分裂像を認めた。

(症例2) HE染色 心臓の心筋間に高度に腫瘍細胞の浸潤、肝臓のグリソン鞘に腫瘍細胞の浸潤、腎臓の尿細管間質に腫瘍細胞の浸潤を認めた。子宮の実質に高度に腫瘍細胞の浸潤を認めた。

ディフクイック染色 腎臓リンパ節と卵巣に大小不同の異型リンパ球像と核分裂像を認めた。

(症例3) HE染色 心臓の心筋間に高度に腫瘍細胞の浸潤、肝臓のグリソン鞘に腫瘍細胞の浸潤、腎臓の腎皮質に腫瘍細胞の浸潤を認めた。肺の細気管支周囲に腫瘍細胞の浸潤を認めた。横隔膜の筋間に腫瘍細胞の浸潤を認めた。第四胃の結節部分の筋層粘膜下脂肪組織に高度に腫瘍細胞の浸潤を認めた。脾臓とリンパ節(浅頸、下顎、腸管膜、内側咽喉頭、耳下腺リンパ節)に大小不同の異型リンパ球像と核分裂像を認めた。

5. 結論：3頭とも、体表や腹腔内のリンパ節の腫大、および様々な内臓器官の結節状のリンパ肉腫の形成が見られる多中心型の牛白血病病変であることから、地方病性牛白血病と推定する。今後は、牛白血病の抗体保有状況を把握し、家畜保健衛生所および農家に情報提供することで、牛白血病の蔓延防止に寄与したいと考える。